

平成30年度第4回社会教育委員会議定例会（第30期） 会議録

会議名（審議会等の名称）		平成30年度第4回社会教育委員会議定例会（第30期）
開催日時		平成31年1月28日（月曜日）午後3時30分～午後5時
開催場所		文化創造拠点シリウス6階 生涯学習センター601講習室
出席状況	委員	8人： 尾辻委員、齋藤委員、長谷部委員、秦委員、濱田委員、丸田委員、水口委員、三好委員
	事務局	2人：文化スポーツ部図書・学び交流課学び交流担当係長、同担当1人 学び交流担当（259-6104）
	関係各課	6人：文化スポーツ部長、図書・学び交流課長、文化振興課長、スポーツ課長、 こども・青少年課長、渋谷学習センター社会教育主事有資格者
	傍聴人数	0人
公開・非公開の状況		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
非公開・一部非公開の場合 はその理由		
審議又は検討経過 及び結果		<p>1 会議次第</p> <p>1 協議事項</p> <p>1) 健康都市やまと MANABI 計画（大和市生涯学習推進計画）について（諮問）</p> <p>2) 家庭教育支援に関する事業について</p> <p>2 その他</p> <p>2 審議及び結果</p> <p>主な内容は次のとおり</p> <p>&lt;開会&gt;</p> <p>&lt;事務局から配布資料の確認&gt;</p> <p>&lt;議長あいさつ&gt;</p> <p>&lt;協議事項&gt;</p> <p>1) 健康都市やまと MANABI 計画（大和市生涯学習推進計画）について（諮問）</p> <p style="text-align: center;">&lt;事務局より説明&gt;</p> <p>（議長）国の計画、県の計画と整合させながら、社会状況の変化に合わせて内容を発展させるということ。新計画の中で新しい社会状況としては、個別目標1-（1）の「人口減少社会」「人生100年」が挙げられており、このような社会状況において「一人ひとりにとっての『居場所』」を作るということが大きな施策となっている。</p> <p>（市）現計画を策定した当時と比べて、より頻繁に「人口減少」「人生100年時代」という言葉が出てきている。大和市でも平均寿命が延びている中で生涯学習をいつまでもやれるものとしているが、地域のコミュニティに入りにくい方がいるのも確か。そこで、大和市では「おひとりさま支援担当」という係まで作って政策を打ち出しているところ。次期計画では、少しでもコミュニティに入ったり、そうでなくても家から出てシリウスやポラリスに来ていただくこと</p>

が第一歩ということで、健康につながるものと考え、計画の一番最初に「居場所」を据えさせてもらった。

(議長) 確かに人口減少社会ではあるが、大和市ではマンションがたくさん建設中で小学校も児童数が増えている。人口減少だけではなく一時的とはいえ増えている点も課題であると思う。

(委員) 先般、平塚で公民館大会があった。平塚は公民館が26あり、その代わりコミセンがない。大和は5つの公民館と20のコミセン、22の児童館がある。生涯学習という観点で捉えることができると思うが、教育委員会の学習センター、生活あんしん課のコミセン、こども・青少年課の児童館とバラバラに運営されている。これらを連携して進める方法はないものか。

(市) 御指摘のとおりと思う。大和市の学習センターは補助金の問題などもあり、結果としてコミセンとは位置付けが異なることとなったが、コミセンは学習センターを補完する施設との認識。講座等は学習センターが中心となっているが、コミセンでも積極的に実施していることは承知している。次期計画に具体的な記述はないが、背景事情としてコミセンも含めて「居場所」として考えられる。先般、家庭教育支援講座に関する議論の中で、もっと個別の地域ということでコミセンを会場にすることになったが、このような連携は大切と考えている。今後も社会教育委員の皆様の御意見をいただいて進めてまいりたい。

(委員) 公民館は教育委員会、コミセンは市。所管する部署が違うだけに、教育委員会の生涯学習施策としてコミセンを使うのはなかなか難しいだろう。しかし、地域の中にある公共施設という意味では同じなので、実際のところ一緒にやっていくのが望ましい。学習センターがコミセンを一体化していくような動きに踏み込めないのか。

(市) 学習センターは地域とはいえ比較的広い地域を対象として民間事業者が指定管理者として運営しているが、コミセンはより地元に着した施設を地域の人達に運営してもらっているなど、公共施設として役割の違いがある。そのため、いきなり学習センターがコミセンに積極的に出ていくような動きは困難だが、今年度実施した家庭教育支援に関する事業のように、まずは会場の提供のようなことから徐々に連携を進めていくことは可能と考えられる。

(委員) 学習センターはコミセン化、コミセンは学習センター化するといったように、お互いに良いところを教え合うような交流があれば相互発展していくのではないか。場所貸しするだけがコミセンではないし、講座で教えるのだけが学習センターでもないのだから、一体化するまでいなくても、横の繋がりができればと思う。

(市) 次年度から学習センターは全館指定管理者による運営となり、これからはアウトリーチ、外へ出ていく事業が増えていく見込み。指定管理者はアウトリーチをうたっており、そのノウハウもあるので、指定管理化することで学習センターとコミセンとの連携も期待できる。何らかの交流ができるようにしてまいりたい。

(委員) 交流ができるのなら大賛成。ただ、指定管理者制度になると、行政がどこまで入り込めるのかという問題もあるので、難しくなる気も

する。

(議 長) 人口減少社会、人生100年時代における、おひとりさま施策として「居場所」を作るとのことだろうが、それだけだといわゆる箱もの行政になってしまう。しかし、おひとりさまが増えているのも確かだろうから、箱もの、ハードウェアで接点を作るのは良い考え。その上で接点を作るソフトウェアも欲しい。

(市) 現計画の中ではシリウスやポラリスの建設など建物を作ることを中心としていたところもあるが、次期計画ではソフト面をも考慮している。例えば、健康都市大学がこれに当たる。もともと市民大学という名称で学習センターで長く実施していたハイレベル講座があり、市民の皆様から好評だった。これはこれで指定管理者が続けるが、これ以外に市民講師を募集して、市民が講師となって教え合う交流の場となるようにするなど、リニューアルしたのが健康都市大学。現在もシリウス4階の健康テラスでは、毎日図書館のイベントを行っているが、ここの空いた時間を利用して、できれば毎日市民講師に立ってもらいたいと考えている。講師としては70名近くの応募があり、様々な講義内容が登録されている。市民が講師として話すことが重要であるから、むしろお客様が1人でも良いという趣旨。このように市民が不特定多数に対して話をする場を設け、来場者からすれば、シリウスに来れば何かやっていて聴いたり交流したりすることができる。このようなソフト面での施策を健康都市大学を中心に進めてまいりたい。

(委 員) シリウスができて6階で楽しんでいる人が増えている。図書館では若い人の利用が増えて喜ばしい。1階の芸術面も充実していて自分も楽しませていただいている。また、市民大学も楽しみにしており、今回どうなるか興味を持っている。将来的には簡単な資格が取れると良いのでは。ヘルパーの資格など、人口が減少する中でお金を払わなくても取れるような環境があると良いと思う。

(市) 参考になる御意見だと思う。例えば市が行っているものとして「認知症サポーター養成講座」というのがある。また、これからの社会ではホームヘルパーの資格なども取れると良い。そうすれば、おひとりさまも含めた受講者のモチベーションも上がる。計画の運用という面で考えてまいりたい。

(委 員) 21ページのところにスポーツについて掲載されているが、若い人が来るとなると、スポーツに関心を持つ機会が欲しいと思う。計画上のスポーツに関することは、学習センターに留まるものではなく、スポーツセンターも含めた全体が含まれるのか。

(市) そのとおり。スポーツ事業、スポーツ施設を含めた全てを含む。これまでのスポーツという概念は競技性が強かったが、現在同時に策定を進めているスポーツ推進計画では、国のスポーツ基本法におけるスポーツの捉え方が広がったことを受けて、スポーツの範疇を広げる、例えば、子どもの遊びから健康に関すること全てをスポーツとして捉えるような方向を示している。

(委 員) 関連意見だが、先日市政報告が届いて目を通したら、大和市の子どもの体力が全国最低レベルだと掲載されていてショックだった。勉

強も大事だが、体力をつけるのも大切。

(議 長) 高齢者市民に万歩計を配るとか。

( 市 ) 市では、健康ポイントやウォーキングなどを企画し、健康福祉部内には歩こう担当という部署まで作って一生懸命やっているところ。健康ポイントでは、満点になって応募すると抽選でお米がもらえるなど、少しインセンティブ出しつつ、市民の皆さんに運動してもらえるよう広めてまいりたい。

(委 員) 18ページに掲載されている健康都市大学の「市民でつくる健康学部」の年間受講者数2,600人というのも素晴らしいし、図書館の来館者数も現状で年間305万人というのは本当にすごいこと。東名高速に「日本一の図書館300万人」という横断幕が掛かっているが、確実に大和市のイメージアップにつながるのでどんどんやって欲しい。

( 市 ) シリウスも優れた実績を上げているが、今年度から開設している中央林間駅前の中央林間図書館も優れた実績を上げているところ。600㎡程度の広さにも関わらず、非常に多くの人に利用いただいております。3万冊の蔵書数に対して、毎月3万冊の貸出実績がある。母数の違いがあるとはいえ、シリウスと比較しても驚異的な貸出率となっている。図書館の利用者数が400万人を超えるのは大変だが、そういった実績も踏まえて、高尚な目標設定をさせていただいたところ。

(委 員) 少し話題が違うかもしれないが、各小学校などで何十周年記念誌とかを作っている。この前、深見小が60周年を迎えて記念誌を作ったが、図書館に聞いたら蔵書していない、寄贈されない限り蔵書できないといわれた。深見小に聞いたら、気が付かなかったとのこと。確かに、子どもたちの写真が載っているので寄贈しにくいということがあるかもしれないが、シリウスの近くには光丘中や大和東高校もあるので、記念誌が出たら図書館に蔵書してもらいたい。地元卒業生がまだまだたくさんいるので、触れる機会があると良いと思う。

( 市 ) 現在の図書館が待ちの姿勢であることは確かだが、指定管理者側にも地域資料の収集に努力しなければという認識がある。ただ、もう少し市側が動いて、学校側からアプローチしていく姿勢も大事であると思う。一昨年には全国の図書館で記念誌が破られるという事件があり、大和の図書館でも調査したところ、数冊の被害があった。また、個人情報の管理も必要なので、閉架書庫で管理することも考えられるが、それだと見たい人が気軽に見られないという問題もある。これらの点を考えながら、充実させてまいりたい。

(議 長) それでは、教育委員会から諮問を受けた次期計画について、このあたりでよろしいか。

(委 員) 諮問への答申となると、本当のところはもう少し練らないといけないと思うが。

(議 長) より詳細な具体策は、この後に出てくるのか。

( 市 ) 今後、実施計画を出すこととなる。

(議 長) 評価は毎年行うのか。

( 市 ) 毎年、教育委員会の点検評価を行っている。

(議 長) 今後も議論の機会はあるということなので、以上をもって、答申内容については議長一任ということによろしいか。

<各委員から賛成の声が上がる>

(議 長) それでは、一任してもらおう。

～休憩～ (関係各課退席)

～再開～

<協議事項>

2) 家庭教育支援に関する事業について

<渋谷学習センター社会教育主事有資格者より説明>

(議 長) 案を2つ作ってもらったようだが、どっちかを1つ選ぶということか。

( 市 ) 内容を決定するのは今日でなくてもかまわないが、学習センターの来年度の事業計画との兼ね合いがあるので、実施時期、日程、場所は早急に決めたい。特に、本件は社会教育委員の皆さんも運営に携わっていただくものなので、皆さんの都合の良い日を選ぶ必要がある。

(議 長) 我々の任期は5月まで。継続する人もいるだろうが、次の人にも継続してもらえるようにしなければならない。

( 市 ) 皆さんの任期は5月31日まで。皆さんには実施時期や日程などを決めていただき、次の任期の委員さんに引き継いでもらうこととなる。予算については、まだ議会の審議前だが、予算案の中には確保してあるので、議会の議決を得られれば対応できるようになっている。

(議 長) そうすると、やはり日程と場所を決めるということになる。案では9月から12月となっているが、これの意味は。

( 市 ) 9月から12月というのは、今年度の実施時期を踏まえてのものであり、これにこだわるものではない。

(議 長) 日程決めは、子どもたちの運動会があつたりするので難しい。

( 市 ) 日程については健康都市大学との関連も出てくる。健康都市大学は、既存の市民大学や高齢者対象講座、子育て講座、街づくり学校などを全て包括した事業。含まれるメニューを1冊の冊子にまとめて全て分かるようにする。家庭教育支援講座もこの中に入れ込んで市民の方にPRして参加を促したい。そのためにも、実施の時期が分かると冊子に載せられるので、より受講しやすくなる。

(議 長) 冊子ができるのはいつか。

( 市 ) 今年度の早い時期と補完版を年度途中に出す予定。

( 市 ) まだ分かっている講座ばかりではないので、一度出した後に、途中

で補完することとなる。

- (委 員) 対象者は児童を持つ保護者で良いと思う。ただ、場所については、12月に渋谷学習センターで行った臨時打合せでは、PRは学校のPTAに協力してもらい、会場はコミセンという話が出ていたと思うが、結局は学習センターで実施するというのか。
- (市) 学習センターにこだわるものではないが、会場を押さえやすいというのはある。ただ、案2では小学校体育館での実施も想定しているので学習センター一辺倒というわけではない。
- (委 員) 今年度と同じようにコミセンで事業をやれないか。地域に根差したコミセンをもう少し活用したい。社会教育委員がアプローチしていても良いのではないか。案からコミセンが消えたのはさびしく思う。
- (委 員) シリウスでも子育て講座を行っているし、各学習センターでもやっている。我々が同じようなことをやっても意義は薄い。社会教育委員としてどうやって関わっていくのか。また、参加者が市外の人でも意味がないので、地域を限定して行っていくべき。そうしないと継続できないのではないか。何もコミセン20箇所に分けるとしているのではなく、せめて北部、中部、南部の3地区くらいに分けて定着させていかなければならないのではないか。
- (市) 乳幼児の場合は保護者が一緒に車で移動することが多いと想定されるので、駐車場がないというコミセンのデメリットがある。しかし、コミセンを使うのは昔から考えていたことで、学習センターとコミセンがサテライト的につながっていくのが一番良いと思う。その点、児童の保護者を対象にした場合、車移動ではなく、自転車移動が多いのではないか。そうすると駐車場がないコミセンも会場としてあり得ると思う。
- (委 員) 参加者を一般公募した場合、今年度に草柳コミセンでやったときでも参加者は草柳の人達ではなかった。学習センターでやった場合は、どういう人が来るのか分からない。地域のPTAとかをどうやっても巻き込むのかを考える必要がある。また、例えば光丘中だと4つの小学校区があるが、中学校を会場として使えるなら、子どもたちは歩いていくのだから、地域の人達も来やすいのではないか。市内全域を対象としても、結局は人は集まらないのだから、地域にある学校を含めた公共施設を巻き込みたい。
- (議 長) 色々考えていかなければいけないが、健康都市大学に位置付けられるのは、宣伝という意味で大きい。冊子に載せるためにも、きちんと時期と場所を決めておきたい。
- (委 員) 予算に関して質問がある。来年度の家庭教育支援事業は健康都市大学の予算の中でやるのか、今年度のように単独でやれるのか。
- (市) 今年度は渋谷学習センターの講座予算から支出した。
- (市) 今年と同じように単独予算となる。各講座はこれまでどおり独自に実施していくこととなる。
- (委 員) 主催はどうなるのか。市になるのか。
- (市) 図書・学び交流課の単独事業なので、社会教育委員の主催にできる。
- (委 員) 渋谷学習センターで行った臨時打合せでは、PTAの家庭教育学級

に働き掛けてコミセンでやったらどうかという話まであった。やはりコミセンを会場にしたい。

(議長) 話を開催時期に戻す。

(委員) 時期的には9月～12月、できれば3箇所で行いたい。謝礼の問題とかあるかもしれないが。

(議長) そういう点からも今年度は2回だった。

(委員) 場所は、半年くらい前に決めておけば、色々できるということか。

(市) 学校を会場にするのであれば校長会などにも諮れるので、早めに分かれればありがたい。

(議長) 秋が有力だと思うが、秋は色々な行事があるだろうし難しい。

(委員) 1月になると寒くて来ないだろう。

(委員) 9月しかないのではないか。10月～11月は行事が多すぎる。12月は歳の瀬だし、7月と8月は暑い。

(委員) 夏休みが8月下旬に明けるので、9月は学校側が厳しい。9月下旬には運動会が集中する。

(委員) 11月は文化祭などがあるから中学校は厳しいだろう。

(委員) 11月の初めの方はPTAバレーボール大会もある。

(委員) 11月の中旬から下旬しかないのではないか。時期は短期間に限定されるが、会場が違えば3回できるのではないか。

(市) 対象者が保護者なので、平日なら子供たちが学校に行っている時間帯に、父親を対象とするなら土日となるか。

(委員) 土日と平日どっちがよいか。

(議長) 父親の参加を想定し、やはり土日が良いだろう。11月中旬の土日となると、9日、10日、16日、17日となる。

(市) 地域の行事の日程を確認しながら、9日、10日、16日、17日で検討する。

(議長) 今年度は2回連続講座にしたが、2回目は参加者が減ってしまった。1回だけ1日だけにするのはどうか。

(委員) 賛成する。3時間の講座にしてもアクティビティを入れれば苦にならない。

(委員) 賛成する。ワークショップも入れて3時間が良いと思う。

(市) 1回3時間完結の講座にして、これを2会場で実施することも考えられる。本日はこのくらいの整理にしておき、地域の行事などを調べた上で、改めてお知らせしたい。

## 2 その他

### 1) 平成30年度社会教育委員に関する研修会等について

＜出席した委員から研修会についての報告＞

### 2) 平成30年度実施の家庭教育支援に関する事業のふりかえりについて

＜渋谷学習センター社会教育主事有資格者より説明＞

(市) 参加者に連絡を取り、特に夫婦で参加してくれた家族の予定では2月24日が第一希望となっている。これでどうか。

	<p>(委 員) 会議があつて参加できない。</p> <p>(委 員) 都合がつかない。</p> <p>(議 長) 重要な人が参加できないがどうするか。</p> <p>(委 員) 参加できる人でやったら良い。参加者と日程調整するのは時間もかかるだろう。参加者が来やすい日で良いのではないか。</p> <p>( 市 ) では、2月24日ということで進めさせていただく。</p> <p>3) 次回日程について</p> <p>(議 長) では、次回の説明を事務局からお願いする。</p> <p>( 市 ) 次回は、第30期の最後の会議となる。例年4月の最終金曜日に開催している。</p> <p>(委 員) 年度末の忙しい時期に何度も日程調整するのは大変だから、今この場で決めてしまうのが良い。</p> <p>( 市 ) それでは、例年どおり4月26日(金)15時30分からとしたい。場所は改めてお伝えする。</p> <p>&lt;閉会&gt;</p>
<p>会議資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度第4回社会教育委員会議定例会(第30期)次第</li> <li>・第30期大和市社会教育委員名簿</li> <li>・健康都市やまとMANABI計画(生涯学習推進計画)について(諮問)</li> <li>・健康都市やまとMANABI計画(生涯学習推進計画)(案)</li> <li>・家庭教育支援事業企画立案書(第1案)</li> <li>・家庭教育支援事業企画立案書(第2案)</li> </ul>